

**「訪問看護事業所の機能集約及び基盤  
強化促進に関する調査研究事業支援班」  
におけるモデル事業概要について」  
(主任研究者 川村佐和子)**

**社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
理事 顧問 上野桂子**

# 1) 研究事業の背景

平成20年3月25日社会保障審議会 介護給付費分科会資料: 全国訪問看護事業協会

○ 訪問看護ステーション数、利用者数とも、微増にとどまっている。

○ 事業損益(平成20年3月分)が赤字のステーションが全体の31.6%。  
黒字の事業所は、非常勤職員を多く雇用し、職員1人あたり給与費を下げ、職員1人あたり訪問回数を多くして、収支を黒字にしている状況がみられる。

○ 小規模なステーション(職員数が少ない、利用者数が少ない、延訪問回数が少ない)ほど、赤字の割合が高くなっている。10人以上の大規模型は1割未満にとどまっている。

○ 訪問1回あたり、利用者宅に平均65分滞在し、その他、準備・移動・記録・ケアカンファレンス等に58分かかっている。

○ 看護師3人未満のステーションでは、平均15.6日(2日に1回)夜間携帯を持参しており、職員にかかる負担が非常に大きい。



○ 訪問看護ステーションの大規模化、業務のネットワーク化を試みたらどうか？